

2024年7月23日

2024年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

猛暑関連需要、レジャー復調を受け改善が続く

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、6月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

- 県内産業の現況（2024年4～6月期）は、『順調』が「建設」「情報サービス」の2業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「民生用電器部品」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の12業種となった。
- 『低調』は「住宅」の1業種で、『好調』および『不調』の業種はなかった。

今後の見通し

- 2024年7～9月期の見通しについては、引き続き『好調』と『不調』の業種はなく、「民生用電器部品」が『普通』から一段階上昇して『順調』となるため、『順調』が3業種、『普通』が11業種、『低調』は1業種となる見通し。
- 物価高に伴う実質賃金の減少が長期化する中、個人消費全体の回復は力強さを欠くものの、記録的な猛暑の到来によりエアコンや飲料などの特需が見込まれる。また、夏休みを迎え、外食や旅行といったサービス市場の復調に伴い、県内産業景気は緩やかながら改善が続くと予想される。
- 本調査と同時に実施したアンケート調査によれば、県内企業の8割以上が今夏のボーナス支給額を「増やす」と回答している。賃金やボーナスの持続的な増加によって消費が活発化し、県内景気の底上げにつながることを期待される。

業種	業界天気	
	現況 (4-6月)	見通し (7-9月)
製紙		
食品・飲料		
工作機械		
民生用電器部品		
自動車部品		
二輪車部品		
建設		
住宅		
大型小売店		
自動車販売		
物流		
情報サービス		
人材派遣		
観光・レジャー		
外食		

※本件のお問合せ先 担当 田原

〈8月の記者発表予告〉下記の調査について記者発表を予定しています

「静岡県版 景気ウォッチャー調査（2024年7月）」

猛暑関連需要、レジャー復調を受け改善が続く

業界景気の現況（2024年4～6月期）

県内産業の現況（2024年4～6月期）は、『順調』が「建設」「情報サービス」の2業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「民生用電器部品」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の12業種、『低調』が「住宅」の1業種で、『好調』および『不調』の業種はなかった。

業界景気の見通し（2024年7～9月期）

7～9月期の見通しについては、引き続き『好調』と『不調』の業種はなく、「民生用電器部品」が『普通』から一段階上昇して『順調』となるため、『順調』が3業種、『普通』が11業種、『低調』は1業種となる見通し。物価高に伴う実質賃金の減少が長期化する中、個人消費全体の回復は力強さを欠くものの、記録的な猛暑の到来によりエアコンや飲料などの特需が見込まれる。また、夏休みを迎え、外食や旅行といったサービス市場の復調に伴い、県内産業景気は緩やかながら改善が続くと予想される。






業種ごとにみると、製造業では、主力の「自動車部品」が『普通』を維持。メーカーの認証不正問題の影響で全国の生産水準は低下しているものの、県内への影響は軽微とみられ、部品生産量は前年をわずかながら上回る見込み。また、猛暑で家庭用エアコンの増産が見込まれる「民生用電器部品」が『普通』から『順調』に上昇する一方、内需の回復が遅れ受注量が伸び悩む「工作機械」は『普通』のまま推移する見通し。そのほか、「製紙」は家庭紙の価格改定前の駆け込み需要の反動減が懸念されるものの、単価上昇に伴う収益改善が見込まれる。同様に、生産量は減少するも価格改定が浸透し前年並みの売上を見通す食品、猛暑による需要増加が期待される飲料を含む「食品・飲料」も『普通』のまま推移する模様。

非製造業では、減災に向けたインフラ整備や県東部を中心に商業施設等の開発が進む「建設」、首都圏の企業などからのシステム開発受注が好調な「情報サービス」が『順調』を維持する見通し。物価高による販売数量の減少で売上が微減見通しの「大型小売店」、認証不正問題の余波で一部車種の供給が滞るも総じて需要が堅調な「自動車販売」、猛暑でエアコンや飲料関連の荷動きが活発化する「物流」、主力の一般事務需要の増加が期待される「人材派遣」、インバウンドの集客増加に期待がかかる「観光・レジャー」、節約志向の影響を受けつつも夏休み中の来客数の増加が見込まれる「外食」は、引き続き『普通』で推移するとみられる。一方、「住宅」については、建築費の上昇を受けて顧客の購入意欲が冷え込む中、戸建て住宅の需要低迷が続くとみられ、『低調』から脱け出せない状況が続く。

2024年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業種	業界天気		売上高 (前年同期比伸び率)	主要産業の見通し
	現況 (4-6月)	見通し (7-9月)		
製紙		→ 	➔	家庭紙は業務用が好調だが、特需の反動減の可能性も
食品・飲料		→ 	➡	生産減も販売単価の上昇で、売上高は前年実績を確保
工作機械		→ 	➡	全国は横ばい基調だが、県内は受注に濃淡があり、回復が遅れる
民生用電器部品		→ 	➔	猛暑で、家庭用エアコンの出荷台数は前年比増
自動車部品		→ 	➔	認証不正問題の影響は軽微で、県内の部品生産量は前年比微増
二輪車部品		→ 	➡	大型車需要が一巡し供給超過気味、生産量は前年比減
建設		→ 	➔	公共・民間ともに需要堅調で、契約高は前年水準を上回る
住宅		→ 	➡	戸建て需要は弱含み、貸家・分譲は市街地開発で底堅く推移
大型小売店		→ 	➡	消費者の節約志向が強まり、販売額は微減で推移
自動車販売		→ 	➡	認証不正問題の影響はあるが、需要は底堅く前年比横ばい
物流		→ 	➡	猛暑でエアコンや飲料の荷動きが活発、輸送量は前年並み
情報サービス		→ 	➔	需要は堅調に推移、首都圏での受注案件増加に期待
人材派遣		→ 	➡	主力の一般事務需要が堅調に推移、全体も微増
観光・レジャー		→ 	➔	猛暑や物価高が足かせとなり、国内の旅行需要の回復は鈍化
外食		→ 	➡	節約志向が続くものの、夏休みの来客増で前年並みの売上を見込む

表の見方

業界天気				売上高	
	好調		低調	➔	非常に増加(+10%以上)
	順調		不調	➡	増加(+3~+9%)
	普通			➡	横ばい(+2~△2%)
				➡	減少(△3~△9%)
				➡	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査「現況」推移

年次	2021年		2022年				2023年				2024年	
四半期	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ
対象月 (○は調査月)	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥ (今回調査)
全業種の平均階級値	2.40	2.60	2.67	2.53	2.80	2.93	2.93	3.00	3.13	3.07	3.07	3.07
好調:5												
順調:4												
普通:3												
低調:2												
不調:1												
業種数	好調 ☀️	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	順調 ☁️	2	1	2	1	2	2	3	4	3	2	2
	普通 ☁️	4	5	3	3	5	7	8	7	11	12	12
	低調 ☁️	7	7	9	10	7	5	4	4	1	1	1
	不調 ☁️	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(6月調査であれば4~6月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(6月調査であれば7~9月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。
 調査時点…2024年6月上旬
 回答企業…県内主要15業種(152社)

注3) 平均階級値は、好調:5、順調:4、普通:3、低調:2、不調:1とする、15業種の平均値。

各業種および表の見方

製紙

家庭紙は業務用が好調だが、特需の反動減の可能性も

【現況】
☁️

↓

【見通し】
☁️

【4-6月期】 家庭紙は、価格改定前の駆込み需要が発生したほか業務用が好調で、生産量は前年をやや上回ったとみられる。段原紙の生産量は前年をやや下回る水準で推移した模様。

【7-9月期】 家庭紙は、人出の増加で業務用は好調だが、値上げ前の特需の反動が生じることで、生産量は前年をわずかに下回ると見られる。衛生用紙の生産量は前年をわずかに上回り、食品向けが底堅く推移し、生産量は前年並みで推移する見通し。白板紙も前年と同水準で推移するとみられる。

国内紙・板紙生産量 (前年比) (%)

資料: 経済産業省

【7-9月期売上高】 前年同期比 4-6月期比


操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	横ばい	上昇	0.1~1.0ヵ月

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	ヵ月
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	
69~60%	供給超過	過多	下降	下降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	


主要業種景況見通し

製紙 家庭紙は業務用が好調だが、特需の反動減の可能性も

【現況】



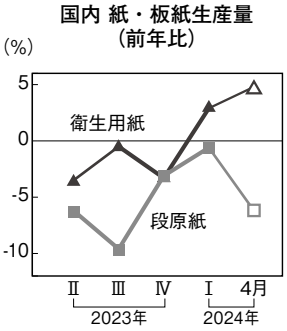
【見通し】



【4-6月期】 家庭紙は、価格改定前の駆け込み需要が発生したほか業務用が好調に推移し、生産量は前年をやや上回ったとみられる。価格改定は6月以降徐々に浸透しつつある。段ボール原紙は総じて弱含みで、生産量は前年をやや下回る水準で推移した模様。

【7-9月期】 家庭紙は、人出の増加で業務用は好調だが、値上げ前の特需の反動が生じることで、生産量は前年を下回る見込み。ただし、価格改定の浸透で収益面は改善傾向にある。段ボール原紙は、飲料をはじめ食品向けが底堅く推移し、生産量は前年並みで推移する見通し。白板紙も前年と同水準で推移するとみられる。

**国内紙・板紙生産量
(前年比)**

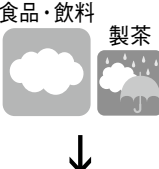


資料：経済産業省

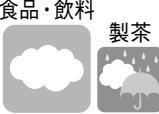
前年同期比	4-6月期比	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
→	→	90%以上	均衡	適正	横ばい	上昇	0.1~1.0ヵ月

食品・飲料/製茶 生産減も販売単価の上昇で、売上高は前年実績を確保

【現況】



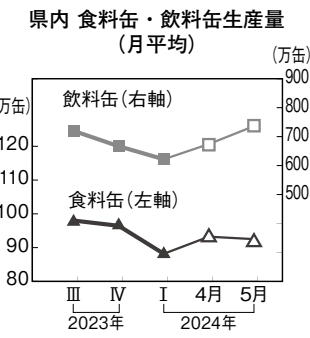
【見通し】



【4-6月期】 **食品・飲料**：県内食料缶メーカーの売上高は、前年をわずかながら上回った。生産量は前年を下回ったが、価格改定の浸透で販売単価が上昇した。飲料缶類は受注が低調で、生産量は前年を下回った。**製茶**：製茶問屋の売上高は、緑茶需要が弱く、前年を下回った。

【7-9月期】 **食品・飲料**：県内食料缶メーカーの売上高は、前年並みで推移する見通し。生産量が前年を下回るものの、価格改定による販売単価の上昇が期待される。飲料缶類の生産量は、前年を上回る見通し。例年より気温が高く、需要が上向き見込み。**製茶**：製茶問屋の売上高は、専門店向けが低調で、前年を下回る見通し。

**県内食料缶・飲料缶生産量
(月平均)**




資料：(一社)静岡缶詰協会


前年同期比	4-6月期比	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
→	→	90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

工作機械 全国は横ばい基調だが、県内は受注に濃淡があり、回復が遅れる

【現況】



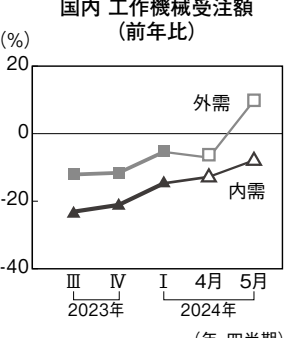
【見通し】



【4-6月期】 全国の受注額は、前年並みの水準で推移した模様。5月の受注額は、外需が前年比+9.8%となり、総額も同+4.2%と17ヵ月ぶりに前年実績を上回った。ただし、県内メーカーにも引合いが戻ってきたが、受注に濃淡があり、全国ほど受注が確保できなかった。

【7-9月期】 全国の受注額は、引き続き前年並みで推移する見通し。中国市場の活性化などで、主力の外需は底を打ったとみられるが、海外経済の先行き不透明感は強く、本格的な復調には至らないと予想される。内需は依然として弱含みで、EV化投資に慎重な中小の自動車部品メーカーがメインの県内事業者は苦戦が続くそう。

**国内工作機械受注額
(前年比)**



資料：(一社)日本工作機械工業会

前年同期比	4-6月期比	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
→	→	89~80%	均衡	適正	横ばい	横ばい	4.0~11.0ヵ月

民生用電器部品

猛暑で、家庭用エアコンの出荷台数は前年比増

【現況】



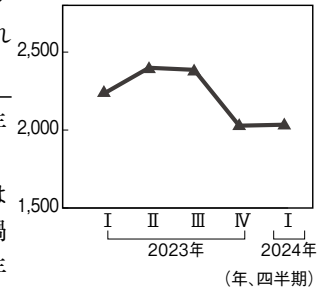
【見通し】



【4-6月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年をやや上回った。4月から真夏日を記録するなど気温の高い日が続き、全国的に需要が増加。業務用エアコンは、北米向けが好調に推移し、前年を上回った模様。これに伴い、県内部品メーカーの生産量も前年を上回った。

【7-9月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年を上回る見通し。家電量販店などで販売が伸びており、猛暑による増産計画も示され、部品メーカーの生産量は前年を上回るとみられる。ただし、前年同期はコロナ禍の買い替え特需の反動で在庫が積み上がったため、今年も売行き次第では計画が下方修正される可能性がある。

国内 家庭用電気機器出荷額
(月平均)
(億円)



資料：経済産業省

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	過小	横ばい	横ばい	1.0~3.0ヵ月

自動車部品

認証不正問題の影響は軽微で、県内の部品生産量は前年比微増

【現況】



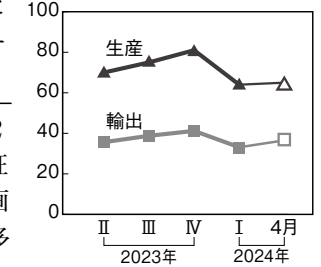
【見通し】



【4-6月期】全国の自動車生産台数は、昨年末のダイハツに続き、トヨタやマツダなど4社でも型式認証を巡る不正問題が新たに発覚。一部車種の生産が停止したことで、前年を△1割強下回った。これに伴い、県内部品メーカーの生産量も、前年をやや下回って推移した模様。

【7-9月期】全国の自動車生産台数は、前年実績を△2~3%下回る見通し。供給不足は改善しているが、認証不正問題の影響で、トヨタやマツダの生産量は当初計画を下回る見込み。ただし、県内部品メーカーと取引の多いスズキの生産量は安定しており、総じて影響は軽微で、部品メーカーの生産量は前年をわずかに上回りそう。

国内 自動車生産・輸出台数
(月平均)
(万台)



資料：(一社)日本自動車工業会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	横ばい	上昇	0.5~3.0ヵ月

二輪車部品

大型車需要が一巡し供給超過気味、生産量は前年比減

【現況】



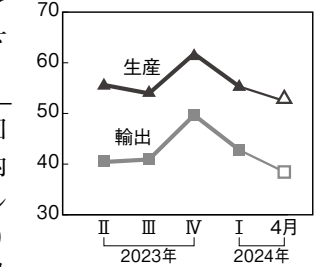
【見通し】



【4-6月期】全国の完成車生産台数は、好調だった前年を割り込んだ。新興国では、購入されるモデルが高価格帯にシフトしつつあるなど堅調だったが、先進国では、アドベンチャータイプの大型車需要が一巡し、前年を下回った。県内部品メーカーの生産量も前年比減となった。

【7-9月期】全国の完成車生産台数は、前年をやや下回る見通し。先進国での大型車需要は一服感があり、国内外とも供給超過気味で、完成車メーカーは、人気モデルの外観一新やプレミアム車種の投入などで需要喚起に取り組む計画を示している。このような状況下、県内部品メーカーの生産量は前年水準には届かない見込み。

国内 二輪車生産・輸出台数
(月平均)
(千台)



資料：(一社)日本自動車工業会

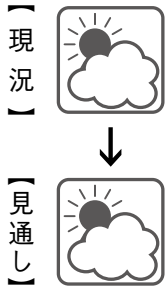
【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



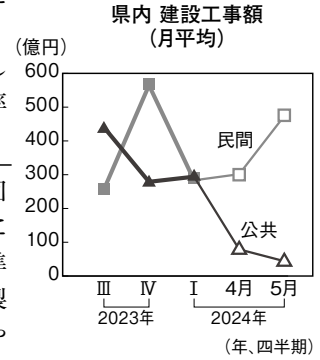
操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	供給過多	過多	横ばい	横ばい	1.0~2.0ヵ月

建設 公共・民間ともに需要堅調で、契約高は前年水準を上回る



【4-6月期】県内の公共工事契約高は、前年を上回った模様。国、県関係で土木工事の大型発注があったほか、市町関係でも公共施設の整備工事があり、契約高を押し上げた。民間の工事費予定額は、主に運輸業で業務効率化に向けた設備投資需要が旺盛で、前年を上回った。

【7-9月期】県内の公共工事契約高は、前年をやや上回る見通し。国、県、市町いずれも国土強靱化施策などに基づくインフラ整備工事の発注が続くとみられ、高水準で推移する見込み。民間の工事費予定額は、運輸業や製造業などの拠点整備が続くほか、東部を中心にホテルや商業施設の開発も進み、前年を上回る見通し。



資料：国土交通省、建通新聞社

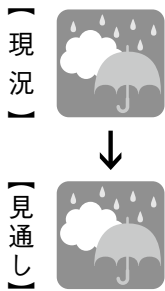
【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



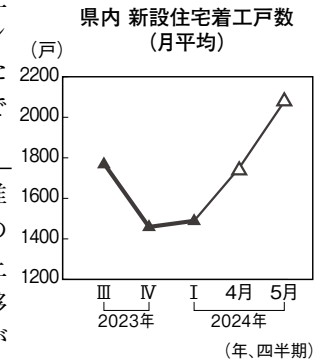
操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
90%以上	需要超過	—	横ばい	横ばい	4.0~12.0ヵ月

住宅 戸建て需要は弱含み、貸家・分譲は市街地開発で底堅く推移



【4-6月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年をやや上回った模様。分譲是三島駅周辺で再開発事業に伴うマンションの着工があったことから一時的な大幅増となったほか、貸家も前年を上回った。しかし、長引く物価高で戸建て需要が上向かず、持家は低調に推移した。

【7-9月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年並みで推移する見通し。賃上げの広がりに伴う顧客の購買意欲の改善に期待がかかるものの、建築費高騰や住宅性能向上による販売価格の上昇で、戸建ての需要は弱含みで推移するとみられる。一方、中心市街地で集合住宅の開発が進み、貸家や分譲マンションは底堅く推移する見通し。



資料：国土交通省

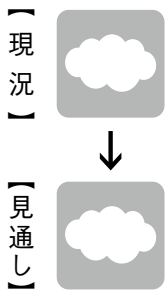
【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



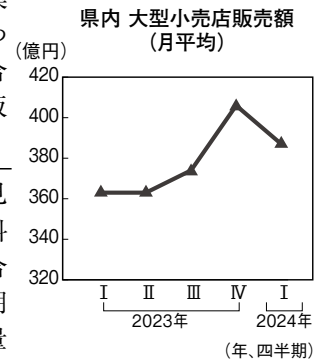
操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
79~70%	均衡	適正	横ばい	上昇	1.0~6.0ヵ月

大型小売店 消費者の節約志向が強まり、販売額は微減で推移



【4-6月期】県内の総販売額は前年をやや下回った模様。気温の高い日が続く、百貨店では春物衣料が振るわず、身の回り品や飲食料品も前年に届かなかった。総合スーパーは商品単価の上昇が販売額を押し上げた一方、販売数量が落ち込み、販売額全体では横ばいで推移した。

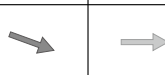
【7-9月期】県内の総販売額は前年比微減で推移する見通し。実質賃金の低迷が長引く中、百貨店は主力の衣料品や身の回り品を中心に前年を割り込む見込み。総合スーパーは、猛暑で水菓や飲料など季節商材の特需が期待されるものの、節約志向の強まりを受けて、販売数量の減少が懸念され、総販売額は横ばいで推移しそう。



資料：経済産業省

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	横ばい	—

自動車販売

認証不正問題の影響はあるが、需要は底堅く前年比横ばい

【現況】

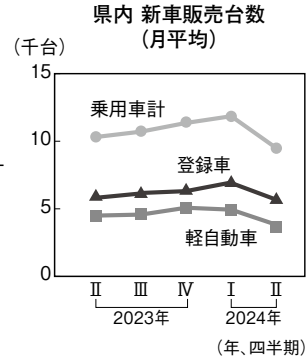


【見通し】



【4-6月期】県内の新車販売台数は、前年を△8.0%下回った。ダイハツによる品質不正問題は終息して供給体制は戻ったが、新たに別メーカーによる認証不正が発覚して6月初旬から一部の量産車種が生産停止となり、店頭での販売も伸び悩んだ。

【7-9月期】県内の新車販売台数は、前年並みで推移する見通し。認証不正問題に伴って一部車種で納車に不安はあるが、コロナ禍から続く納車待ちの状況は徐々に解消に向かう見込み。今夏の新車投入は少ないが、昨冬販売された新型車の人気は根強く、買い替え需要は底堅く推移する模様。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	需要超過	過少	上昇	上昇	1.0~3.0ヵ月

物流

猛暑でエアコンや飲料の荷動きが活発、輸送量は前年並み

【現況】

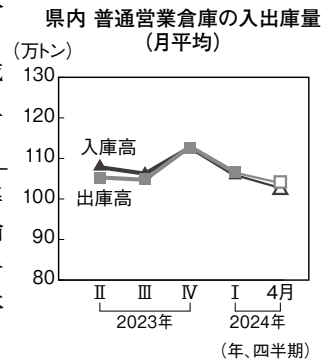


【見通し】



【4-6月期】県内のトラック輸送量は、輸送用機器が微減した一方、食料品など他の貨物が堅調に推移したことから前年実績を確保した。普通倉庫の入出庫高は、機械関連が前年を下回ったものの、紙・パルプは前年を上回って推移した模様。

【7-9月期】県内のトラック輸送量は、前年並みの水準で推移する見通し。認証不正問題の影響が懸念される輸送用機器が弱含みで推移する可能性があるものの、猛暑でエアコンや飲料関連で活発な荷動きが期待され、全体では前年並みを確保する見込み。普通倉庫の入出庫高も前年並みで推移する見通し。



資料：静岡県倉庫協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

情報サービス

需要は堅調に推移、首都圏での受注案件増加に期待

【現況】

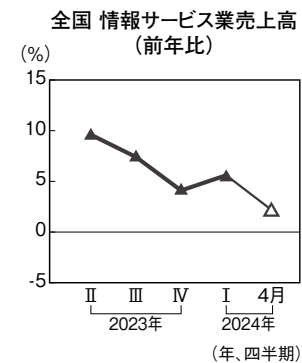


【見通し】



【4-6月期】全国および県内の売上高は、前年をわずかに上回った模様。人件費の上昇などを背景にサービス価格も上向いているが、主力の受注ソフトウェアの需要は堅調だった。また、県内でも開発コストの上昇を受けて価格転嫁が進み、売上高も底堅く推移した。

【7-9月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。人件費など開発コスト増加分の価格転嫁が一段と進展し、サービス価格の上昇が続く可能性がある。県内事業者は、首都圏の企業によるIT関連投資の活発化を受けて高単価案件の受注獲得が期待され、業績は順調に推移する見通し。



資料：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
90%以上	均衡	—	—	上昇	1.0~3.0ヵ月

人材派遣

主力の一般事務需要が堅調に推移、全体も微増

【現況】



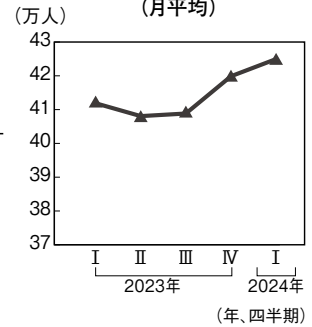
【見通し】



【4-6月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや上回って推移した模様。製造業向けは完成車メーカーの認証不正問題の影響で若干下回ったものの、一般事務関連や接客需要が堅調に推移したことから、全体ではプラスとなった。

【7-9月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、主力の一般事務関連需要が底堅いことから、前年を若干上回る見込み。製造業は引き続き弱含みで推移するとみられるものの、夏休みを迎え、観光・小売関連が堅調に推移する見通し。また、賃上げが追い風となって、派遣単価が上昇しており、収益面の改善も見込まれる。

全国 派遣社員の実稼働者数 (月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

観光・レジャー

猛暑や物価高が足かせとなり、国内の旅行需要の回復は鈍化

【現況】



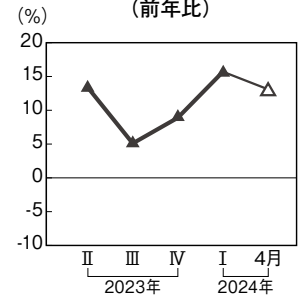
【見通し】



【4-6月期】県内主要旅館の総売上高は、前年を上回った模様。前年の大河ドラマ放映効果は剥落したものの、浜名湖花博2024のほか、人気アニメのコラボ企画 (Meets SHIZUOKA) などが下支えし、県内の観光客数は堅調に推移した。

【7-9月期】県内主要旅館の売上高は、前年水準をやや上回る見通し。夏休み中の国内旅行者の増加に期待がかかるが、猛暑や物価高が足かせとなり、前年からの大幅な上積みは見込み難い。一方、インバウンド客については、中国や台湾からの個人客が前年を上回りそうで、堅調な推移が見込まれる。

県内 宿泊者数 (前年比)



資料：観光庁

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
79~70%	均衡	—	上昇	上昇	—

外食

節約志向が続くものの、夏休みの来客増で前年並みの売上を見込む

【現況】



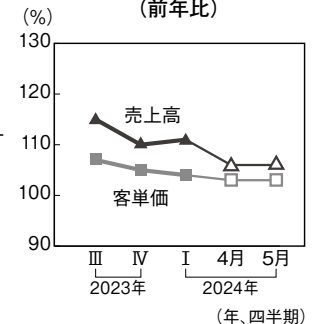
【見通し】



【4-6月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、前年を上回ったとみられる。歓送迎会の復活に加え、国内外から観光客が増えたことで来客数が増加した。ただし、物価高が続き消費者の節約志向が強まる中、客単価の伸びは鈍くなっている。

【7-9月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、前年並みで推移する見通し。物価高による外食控えが懸念されるものの、夏休みシーズンを迎え、帰省客や観光客の増加により、来客数は前年並みを見込む。また、平年よりも気温が高いことから、夏季メニューの売上増加に期待がかかる。

全国 外食売上高・客単価 (前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	均衡	—	横ばい	横ばい	—

特別調査 夏のボーナス支給状況

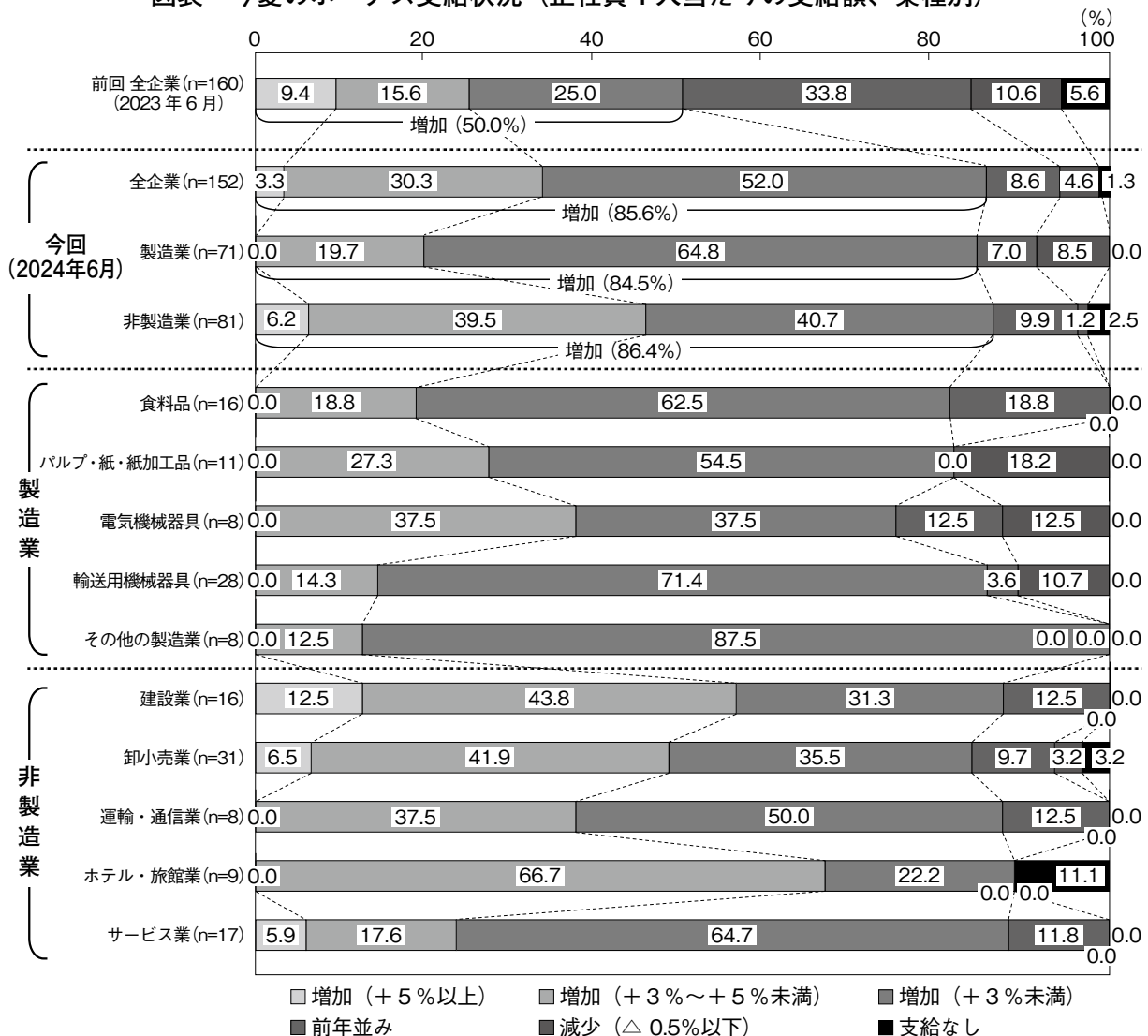
製造業・非製造業ともに8割強の企業が“増加”回答

県内企業に、今夏のボーナス支給について尋ねたところ、前年より「増加」させると回答した企業が85.6%と、前回（50.0%）から大幅に増えた（図表）。増加率の内訳については、「+3%未満」が全体の52.0%と半数を占め、「+3%～+5%未満」（30.3%）が続いた。

なかでも、非製造業は「+5%以上」が6.2%、「+3%～+5%未満」も39.5%と、製造業と比べて引上げ幅が大きい。

業種別に詳しくみると、製造業では「+3%未満」のウエートが大きい業種がほとんどだが、非製造業では、2024年問題への対応などで従業員の確保が喫緊の課題となっている建設業は「+5%以上」増加（12.5%）が比較的高いほか、ホテル・旅館業では「+3%～+5%未満」との回答が3分の2を占めている。

図表 今夏のボーナス支給状況（正社員1人当たりの支給額、業種別）



調査要領：調査時点2024年6月、調査対象企業590社、回答社数152社、有効回答率25.8%